

日本初記録のゲンゴロウ *Platambus ussuriensis* (Nilsson)

三宅 武

〒 879-5511 由布市挾間町古野 1046-17

New Record of *Platambus ussuriensis* (Nilsson, 1997) (Scarabaeidae, Dytiscidae) from Japan

Takeshi MIYAKE

発見の経緯

2019年6月、筆者は長崎県の離島、対馬に同好者5名とともに遠征する機会を得た。前年と同様に佐世保市の松尾照男氏からのお誘いで、対馬在住の境良朗氏にご案内を頂いた。

境氏からは事前に、林道の岩壁から水が浸みだしている場所があり、シジミガムシ属の種が採れているとご教示頂いていたので、是非にとご案内をお願いした。

ご案内頂いた矢立林道ではそれぞれがシジミガムシ属を採ったが、浸みだした水が側溝の落葉下に浅く溜まりを作っていたので、筆者はマメゲンゴロウ属の2頭を採集していた。帰宅後、各文献を調べたものの、どうやら日本に該当種がないことに気付いた。境氏にはすぐ追加個体の採集をお願いした。

種同定への道のり

日頃からご指導を仰いでいる大阪府の森正人氏に海外の文献を調べて頂いた結果、全体写真と♂ゲニタリアの写真から *Platambus ussuriensis* (Nilsson, 1997) の可能性が高いと判断された。同種は Nilsson (1997) がロシア・ウスリー地方から、*Agabus* 属 *Platambus* 亜属の1新種として記載した

種で、中国北東部と朝鮮半島にも分布することが知られている。その後、Nilsson (2000) が *Agabini* 族の *Agabus* 属群を再検討した際、*Platambus* 亜属は属に格上げとなった。また、同種は同論文中で *A. optatus* 種群 14 種内の1種として分類された。

筆者はスウェーデンの Nilsson 博士に対馬産標本同定確認を頂くため、依頼文を九州大学丸山宗利准教授に手助け頂き、標本3個体を送付した。その後、筆者の約2か月の闘病があり、Nilsson 博士は4年前に大学を退官されたこともあったが、届いた標本2♂1♀はすべて *P. ussuriensis* であるとお返事を頂いた。その結果を受け、*Platambus ussuriensis* (Nilsson, 1997) を日本産ゲンゴロウ科の初記録種として、本稿にて報告する。

ウスリーマメゲンゴロウ (和名提唱) *Platambus ussuriensis* (Nilsson, 1997)

日本初記録となる *P. ussuriensis* の和名をウスリーマメゲンゴロウと提唱することとし、追加採集された全個体も含む記録を報告する。ウスリーマメゲンゴロウは体長 6.1~7.0 mm で、背面はほぼ黒色、上翅側縁中央部のやや後方と、上翅端前に1対ずつの暗黄褐色紋がある。本種の体サイズはクロマメゲンゴロウに近く、一方でホソクロマ

メゲンゴロウよりは小型、コクロマメゲンゴロウよりは大型である。本種はクロマメゲンゴロウによく似るが、上翅端前の暗黄褐色紋がより大きく目立つこと、また、♂交尾器中央片の先端は尖り、先端部内側の微細毛を欠くことから区別できる。本稿で報告する標本の採集データは以下の通りである。



図1. ウスリーマメゲンゴロウ♂。



図2. 同♀。



図3. 同♂ゲニタリア。



図4. 生息環境となっている側溝。

2♂, 長崎県対馬市厳原町内山(矢立林道), 3. VI. 2019, 三宅武採集(1 ex. Coll. Nilsson); 6♂4♀, 同, 10. VI. 2019, 境良朗採集(2 exs. Coll. Nilsson); 12♂6♀, 同町久田(矢立林道), 10. VI. 2019, 境良朗採集; 6♂1♀, 同町久田(矢立林道), 12. VI. 2019, 境良朗採集; 1♂8♀, 同町内山(矢立林道), 26. VII. 2019, 境良朗採集; 1♂, 同, 31. VII. 2019, 境良朗採集; 5♂8♀, 同, 1. VIII. 2019, 境良朗

採集; 11♂16♀, 同, 10. VIII. 2019, 境良朗採集; 10♂12♀, 同, 16. VIII. 2019, 境良朗採集; 27♂8♀, 同, 26–27. VII. 2019, 西田光康採集; 25 exs., 同, 26–27. VII. 2019, 松尾照男採集。

謝辞

有益な文献指導を頂いた森正人氏, 標本を同定頂いた A. N. Nilsson 氏, 依頼文をお手伝いくださった丸山宗利准教授, 採集データと採集標本を恵与頂いた境良朗氏, 採集データをお知らせ頂いた松尾照男氏と西田光康両氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- Nilsson, A. N., 1997 (dated 1996). A redefinition and revision of the *Agabus optatus* group (Coleoptera, Dytiscidae); an example of Pacific Intercontinental Disjunction. *Entomologica Basiliensia*, (19) : 621–651.
- Nilsson, A. N., 2000. A new view on the generic classification of the *Agabus-group* of genera of the Agabini, aimed at solving the problem with a paraphyletic *Agabus* (Coleoptera: Dytiscidae). *Koleopterologische Rundschau*, 70: 17–36.

(2019年10月28日受領, 2020年1月25日受理)

【短報】シコクモリヒラタゴミムシの群馬県からの記録

シコクモリヒラタゴミムシ *Hikosanoagonum mutsuomiyatakei mutsuomiyatakei* (Habu, 1974) は, 四国の面河溪などを基産地として記載され, 本州では長野県, 奈良県, 京都府, 大阪府, 和歌山県から記録があり, 西日本に多いようだが, 関東地方では新井(2005)により埼玉県から記録されている。

筆者は群馬県において本種を採集しているので報告する。現時点では北限記録と思われるが, 標本は本種と気付かず保管していた。



図1. 群馬県産シコクモリヒラタゴミムシ。

<採集データ>

1♂, 群馬県水上町(現みなかみ町)湯檜曾, 12. IX. 2005 (図1)。

夜間, JR上越線の土合駅構内で採集した。本

個体は後翅が完全であったことから, 近くの沢などから灯火に飛来したものとされる。2019年8~9月にかけて, 土合駅とその周辺の灯火や沢などで探索したが, 再発見には至らなかった。

本種は長い触角や腹節下面に細毛を有するなどきわめて特異な形態を持つ種であるが, 中・後脛節内側の溝は確認困難であった。筆者は♂陰茎内部に棘状の小骨片5個を確認することができた。

末文ながら, 標本の同定とご意見を賜った森田誠司氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 新井浩二, 2005. 埼玉県産ヒラタゴミムシ族の知見(2). 寄せ蛾記, (118) : 25–31.

(須田 亨 372-0006 伊勢崎市太田町 770-4)